

私立獣医科大学における臨床ならびに衛生学実習に
関する相互評価報告書

平成 23 年 6 月

私立獣医科大学協会

はじめに

私立獣医科大学 5 校は各大学において建学の精神と教育理念を掲げ、高度専門職業人としての獣医師を養成するために、それぞれの大学における所在環境などの特色を生かしながら臨床教育を重視した教育を行なってきた。また、5 大学ともに新しい動物病院を開設し、教育病院として活用して臨床教育の充実を図っている。しかし、獣医学教育を取り巻く国内外の状況は大きく変化しつつあり、獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議による「今後の獣医学教育の改善・充実方策について」が平成 23 年 3 月に取りまとめられ、公表されている。この取りまとめには今後の工程として国立大学においては教育研究体制の整備を図るため共同学部や共同学科など共同教育課程の設置が具体的に提示され、また、モデルコアカリキュラムの提示とそれに基づく各大学でのカリキュラム改革が求められている。さらに、獣医学教育の質保証のための第三者評価の導入とその実施や農林水産省から指針が示されている参加型臨床実習についての各大学での体制作り、共用試験の導入・実施などが記載されている。国際的にも、2009 年 10 月に獣医学教育に関する国際獣疫事務局 (OIE) 会議がパリで開催され、「より安全な世界のための獣医学教育の新展開」勧告が提出されている。

一方、獣医学臨床教育について考えると、伴侶動物医療については 1 次診療から高度先端獣医療まで、産業動物医療については個体診療から群管理に加えて、予防衛生・感染症対策などとそれぞれの分野に非常に異なった概念の広い教育内容が含まれる。

これらの状況を考えると、個々の私立 5 獣医科大学で全ての内容について十分な臨床教育を実施することは難しい場合も考えられる。したがって、それぞれの大学の特色を生かしつつ、私立 5 大学間で実習を含む教育や単位の互換、学生・教員の相互乗り入れなど、臨床教育充実のための協力を積極的に進めていくことが必要になると考えられる。

さらに、日本における獣医学教育では公衆衛生学教育が不十分だとする指摘がなされており、OIE の勧告においても動物の健康、人の公衆衛生、環境衛生を一つとする新しい理念の実行が求められている。したがって、獣医学教育において公衆衛生学を含む衛生学教育についても検証することが必要と考えられた。

私立獣医科大学協会では私立 5 獣医科大学における獣医学教育の改善のために平成 12 年度から相互評価を実施しており、平成 21 年 8 月には第 5 次の相互評価として「私立獣医科大学における臨床教育および動物病院の相互評価報告書」が公表されている。第 6 次の相互評価では第 5 次での相互評価を参考にするとともに獣医学教育改善の焦

点となっている臨床ならびに衛生学実習について相互評価を実施することとした。本相互評価では私立 5 大学において実施されている特色ある実習教育を調査し、今後の 5 大学間での実習教育の協力関係を構築するために必要な基礎的データを収集した。

獣医学教育を取り巻く環境の急速な変化に対応するために、データや評価については短期間での取りまとめを第 6 次相互評価委員会委員の先生にはお願いをした。評価委員各位に御礼を申し上げるとともに、調査に協力を頂きました各獣医科大学の教職員各位に感謝申し上げます。最後に、本報告書が私立獣医科大学におけるこれからの獣医学教育の改善と充実のために寄与することを願っている。

平成 23 年 6 月 24 日
私立獣医科大学協会
第 6 次相互評価委員会
委員長 林 正信

目 次

I 調査方法の概要と委員会構成	1
1. 調査方法の概要と経緯	1
2. 調査項目	2
3. 委員会構成	2
II 各調査項目における相互評価	3
第1章 教員組織	3
1. 教員組織について	3
2. 教育支援者について	6
第2章 教育課程	17
3. 教育課程全般について	17
4. 臨床と衛生学に関する講義・実習の単位数	19
第3章 臨床実習	27
5. 臨床実習科目	27
6. 臨床実習に関わる実習施設など	28
7. 参加型臨床実習について	31
8. 学外での臨床実習について	32
第4章 衛生学実習	68
9. 衛生学実習科目	68
10. 衛生学実習に関わる実習施設など	69
11. 学外での衛生学実習について	69
第5章 学生への支援体制について	84
12. 学生への実習支援体制について	84
13. 留年、就職、進学などの指導体制について	84
第6章 全体のとりまとめと今後の課題	87
III 第6次相互評価調査に関する各大学における自己評価	90
I 臨床実習教育および衛生学実習の目的・目標	90

II 教員構成	96
III 教育支援者	102
IV 教育課程・教育方法	106
V 学生への実習支援体制について	125
VI 実習における連携などについて	126

I 調査方法の概要と委員会構成

1. 調査方法の概要と経緯

動物病院や臨床教育の全般については第5次相互評価が実施・報告されているので、その調査項目とはできるだけ重複を避け、できるだけ臨床実習と衛生学実習に関わる項目に絞って調査を行い、相互評価を行うこととした。

私立獣医科5大学間でカリキュラム上の科目名称とその区分、教科内容が異なっており、特に衛生学関連科目については獣医衛生学、公衆衛生学、食品衛生学、環境衛生学、毒性学、人獣共通感染症学、ハードヘルス学、疫学など広範囲の分野を含んでいる。したがって、本相互評価における調査票では臨床ならびに衛生学科目としてのカリキュラム上の位置づけは各大学での判断にゆだねざるを得ず、各大学での記載を概ねそのまま記載した。そのため比較のためのデータに若干の整合性を欠くこととなった。今後、モデルコアカリキュラムが決定され、教科内容と科目との整理がなされた後、再度詳細な検討が必要と思われる。

私立獣医科大学協会における相互評価では5大学における教員構成の変化などの調査を継続的に行っている。第1次相互評価で報告された平成10年度以降の教員構成がその後どのように改善されたか、あるいは改善されていないのかを評価することは、獣医学教育の改善・充実に重要と考えられるので、臨床実習と衛生学実習に加えて教員構成などについても相互評価を行った。また、学生の修学状況や進路の動向についても過去5年間の推移について示した。一方、獣医学教育の改善・充実のためには教員に加えて、教育支援者の寄与も重要な要因であり、第1次相互評価においても、その拡充が必要であることが指摘されている。しかしながら、以前の相互評価の際にも問題となっていた教育支援者の定義や動物病院における診療の支援者（研修医や動物看護師など）の臨床教育への寄与の解析などについては十分吟味することができず、同一の基準での評価が今回もできていない点については問題点として残ったままで、これらの点については今後の検討をお願いしたい。

相互評価に使用した基礎的数値やカリキュラムについては調査票の記載をお願いした日程の関係上、2010年度4月での実績となっている。カリキュラムについては多くの大学で継続的に改正が行われており、現在新旧のカリキュラムが進行中であつたり、新たなカリキュラムが2011年度から開始する大学もあつた。カリキュラム内容の記載については年度進行中の場合に、新カリキュラム構成と異なつた科目名称で教科内容を授業している場合もあつた。この点についても整理が十分できなかった点があることをご了解いただきたい。また、臨床実習ならびに衛生学関連実習について各大学からシラバスを提出して頂いたが、量的に非常に多いことと記載方法が必ずしも同一でないため、今回の相互評価の調査資料として提示することは委員と協議したうえで取りやめた。

2. 調査項目

1) 教員組織

教員構成、総教員数、年齢構成

臨床系教員数と非臨床系教員数との比率

衛生学担当教員数

教育支援者

2) 教育課程

3) 臨床実習

4) 衛生学実習

5) 学生への支援体制

3. 委員会構成

委員長 林 正信 (酪農学園大学)

委員 新井 敏郎 (日本獣医生命科学大学)

浅利 昌男 (麻布大学)

岡野 昇三 (北里大学)

亘 敏広 (日本大学)

II 各調査項目における相互評価

各章の評価に関わる資料については各章末に添付した。

第1章 教員組織

1. 教員組織について

1-1 教員構成、総教員数、年齢構成について（表 1-1-1～1-1-3）

1-1-1 教員数

（財）大学基準協会で提示された学生 60 名に対して 72 名の教員数を目指して、各大学で教員数を増加させるように努めていることが認められ、平成 10 年度の教員数と比較して、麻布大学以外は 8-9 名の教員が増加している。全国農学部系学部長会議で当面の目標とされた獣医学科専任教員数 54 名については平成 22 年 4 月 1 日現在で日大を除く 4 大学で 54 名以上となっている。

各大学で、附属動物病院専任教員が獣医学科専任教員となっていない場合など教員組織における人員の配置の違いや採用予定があってもまだ決定されていない場合など個別の状況で一概に判断はできないが、国立の農学部系大学の多くが独立行政法人化後、教員定数を減少させていることを考えると私立 5 大学とも改善の努力がなされていることがうかがえる。しかしながら、国立獣医科大学では共同学部や共同教育課程の設置など、獣医学教育の改善のために教員組織の充実が具体化される状況であり、私立獣医科大学 5 大学では今後より一層の教員の数ならびに質の充実が求められる。

1-1-2 教員構成

全教員数に占める各職席の割合では教授の割合が酪農大では 56%と半数以上を占めており、他 4 大学では 30.5～38.3%である。准教授・講師の割合は日大が 36.2%と一番低く、麻布大が 57.5%と最も高い。助教・助手については日大が 25.5%と最も高く、酪農大が 5.3%と低く、他 3 大学は 10%台である。

各職席の人数についてはそれぞれの大学における昇格基準や各職席に定員が設けられているのかなどによって構成が変わるため一概には比較できないが、次世代の獣医学教育を担当する教員の育成の必要性を考慮すると、ある程度全体としてのバランスを考慮する必要があると思われる。

1-1-3 年齢構成

年齢構成では 55 歳以上の教員の割合は麻布大が 52.5%と最も高く、日大が 34.0%と一番低い。他 3 大学は 40～44.4%の間にある。40 歳以下の教員の割合は日大が 36.2%と最も高く、酪農大が 26.3%と一番低いが、他 3 大学は 27.1～35.2%と 5 大学間でそれほど大きな差異はなかった。

平成 14 年度の調査では 55 歳以上の教員の割合は酪農大が 26%、北里大が 32.8%、麻布大が 42.2%、日獣大が 41.2%、日大が 29.3%であった。また、40 歳以下の教員の割合は酪農大が 26%、北里大が 30.0%、麻布大が 20.3%、日獣大が 31.3%、日大が 29.3%であった。

各大学では年齢構成に変化が認められるが、全般的には今回の調査と平成 14 年度調査とを比較して 55 歳以上の教員の割合、40 歳以下の教員の割合ともに大きな変化は認められなかった。

年齢構成は教員組織の変更やカリキュラムの変化による新しい科目の設定に伴う採用、採用されてからの年数、現在の教員の職席の割合などに関連していると考えられ

るが、年齢分布に平成14年度と平成22年度であまり大きな差が見られないことから、教員の入れ替わりは比較的順調に進んでいると考えられる。しかしながら、私立5獣医科大学全体として今後10年間で約4割の教員が入れ替わることが予測され、将来的に獣医学教育を担う若手教員を育成していくことが急務と考えられ、私立獣医科大学協会全体として具体的な手立てを考慮することが必要である。

1-1-4 女性教員数について

10年前の平成14年度の調査に比べると女性教員数は5大学全体では10名増である。女性教員の割合では麻布大学が18.6%、日大が10.6%と比較的高いが、他3大学は5.0~7.0%と1割に達していない。また、女性の教授・准教授の全教員に占める割合は麻布大が5人、8.4%と高く、日獣大が3人、5%、酪農大が2人、3.5%、北里大と日大は0人、0%であった。

採用時の状況や専門性・職席などによって、一概に評価は出来ないが、在学生の約半数が女子学生であることや文部科学省から女性教員の積極的な採用が求められていることを考慮すると不十分な状況であると考えられ、今後より積極的な女性教員の採用の対策が必要である。

1-1-5 他大学出身者の割合について

他大学出身者の割合は酪農大と北里大が60%台で半数以上が他大学出身者である。他3大学は34.0~40.0%であり、6割以上を自大学出身者が占めている。

平成14年度の調査では酪農大が54.0%、北里大が70.0%、麻布大が21.9%、日獣大が41.2%、日大が22.0%であった。

全般的な傾向について平成14年度と平成22年度で差は見られないが、麻布大と日大は増加、酪農大、日獣大がやや増加、北里大がやや減少という結果であった。

新たな獣医学の教育分野においてはより積極的に他大学出身者の採用を考慮することも必要と思われる。一方、教員育成の点、特に今後予想される臨床系教員不足に対応するために自大学での臨床系教員の養成が求められていることから、今後の獣医系教員養成については私立獣医科大学協会で検討する必要がある。

1-1-6 獣医師免許取得者の割合について

獣医師免許取得者の割合は日獣大が81.7%と一番低く、北里大が96.3%と最も高い。獣医師免許取得者は獣医師（獣医学科卒）であることを示していると考えられる。教員の専門性から獣医師免許取得者が必要な教育分野もあることから適正水準は決められないが、獣医学教育が広範な分野を含みつつあるので、一定の割合で他分野出身の教員が採用されることも必要と考えられる。

1-1-7 博士号取得者の割合について

博士号取得者の割合は日獣大が98.3%と最も高く、日大が91.5%（3名の実習助手を含めた取得率）と一番低い。博士号取得割合は助教・助手など若手の教員の割合や米国の専門医資格者の採用なども反映されていると思われるので、一概に評価できないが、原則的には多くの教員が博士号を取得していることが望ましいと考えられる。

1-2 臨床系教員数と非臨床系教員数との比率について（表 1-2-1～1-2-3）

私立獣医科大学 5 校で獣医学科全教員数は平成 10 年度と比較して 24 人増（5 大学平均で 4.8 人増）であるが、臨床系教員については全体で 7 名増（5 大学平均で 1.4 人増）でしかない。

各大学の臨床系教員数は日大が 22 人、北里大 21 人、酪農大 19 人、日獣大 18 人、麻布大 16 人であり、臨床系教員数と非臨床系教員数の比率では日大が 50%と最も多く、麻布大が 27.1%と低く、他 3 大学では 30.0～38.9%であった。なお、日大の計算には副手 3 名は含まれていない。

臨床系教授の人数は酪農大が 9 名と多く、麻布大が 3 名と少なかった。また、臨床系助教・助手の人数は北里大と日大が 6 名、日獣大が 0 名であった。

調査時点における変動もあるので、単純な比較は難しいが、平成 10 年度の調査と比較して、北里大と日大では臨床系教員数とその割合とも増加しており、臨床教育を重視する姿勢が具体化していると考えられる。酪農大と日獣大では臨床系教員数は増加しているが、割合としては同程度である。麻布大では平成 10 年度の調査では臨床系教員数は 29 名で 45.3%と 5 大学で一番高い人数と割合であったが、その後調査年代に伴って教員数、割合とも減少している。この原因は動物病院の専任教員が獣医学科教員に含まれていないなど、大学での教員組織における獣医学科専任教員の取扱に違いが生じたためである。他大学でも同様な状況が生じていることも考えられる。しかしながら、獣医学臨床教育の充実のためには獣医学科専任教員としての位置づけが必要と考えられる。また、全国的に臨床系教員の不足が指摘されているので、私立獣医科大学協会として臨床系教員増とその養成の具体的な取組みが急務の課題と考えられる。

1-3 衛生学担当教員数について（表 1-3）

各大学の衛生学担当教員数は日獣大 5 名、北里大と麻布大 7 名、日大 10 名、酪農大 11 名の順であった。酪農大と日大では全教員に対する比率が 20%程度で衛生学関連教育を重視する姿勢がうかがえる。今回は科目内容に対応した担当教員の調査を行っておらず、衛生学担当として各大学で判断した教員数を記載したので、必ずしも教育実態を反映していないかもしれない。しかしながら、教科目名や単位数の調査と教員数はある程度対応しており、公衆衛生学や人獣共通感染症、食品衛生学、獣医衛生学などの充実が社会的要請となっている状況を考慮して、衛生学担当教員についても拡充が必要と考えられる。

2. 教育支援者について (表 1-4-1~1-4-3)

2-1 教育支援者数と学生との比率について

教育支援者数については前回の調査時においても定義づけが不明確なところがあり、また、5 大学間で事務職員や技術職員の組織における位置づけが異なっている。さらに、事務組織における職員の按分比なども異なっており、単純に比較できない。また、今回の調査では病院研修医が教育に関わっている場合には教育支援者数に加えたため、前回調査との比較も大学間で異なっており、単純な人数、時間数の比較はむずかしいが、獣医学教育を実施するうえで、事務組織や技術職員の協力は不可欠であり、前回に引き続き調査を行った。

各大学の追加の説明は下記の通りである。

酪農大：産業動物のバンクリーナでの作業や解剖に使用した動物のなどの焼却や焼却炉の管理などは業務委託されている。

北里大の技術職員は附属農牧場の職員および 3~4 研究室に 1 名の女性補助職員（ほとんどが臨床検査技師）である。

麻布大学で平成 17 年度調査と比較して、事務職員が 10 人増加しているが、これは事務組織の改組があったため、獣医学科専任事務職員ではない。

上記のように獣医学教育で附属農場を使用する場合の教育支援者としての評価や動物の飼育や関連諸施設の管理などを職員以外に業務委託している場合の教育支援業務として考慮するかなど同一基準で比較するためにはかなり難しい点があることが指摘される。また、TA や病院研修医の実質的な教育支援者としての役割や寄与の程度ならびにその評価などを整理することが必要と考えられる。しかし、これらの問題点はあるとしても、教育支援者数は前回調査とほとんど変化していないと考えられ、第一次相互評価において教育支援者について改善が必要と指摘されているが、あまり改善されていないと考えられる。

2-2 教員充足率について (表 1-4-1)

平成 10 年度との比較では多少改善傾向が認められるが、日獣大が 0.63 と比較的高いのみで他 4 校は 0.33~0.41 と 0.5 以下である。個々の大学で大学基準協会の基準を早急に達成することは現状では難しいと考えられるが、1-1 で記載したように国立獣医科大学では共同学部や共同学科など共同教育課程の設置について具体的に計画がなされており、見かけ上の教員数は増加する。私立 5 獣医科大学においても一部科目の共同での実施など教育の充実のために危機感を持って早急に対応することが必要と考えられる。

2-3 大学附属動物病院における支援要員について (表 1-4-3)

麻布大と日大では有給獣医師が支援要員として勤務しており、動物病院における位置づけが明確になっていると思われる。

有給研修医については北里大で 5 名と一番少なく、日大が 23 名と最多である。附属動物病院の規模や症例数、対象動物種などが異なるため単純に人数での比較は難しい

が、イヌ、ネコの症例数は 8,100（北里大）～15,400（日大）と 2 倍程度の差であるが、研修医数の差はこの差より大きく、有給研修医の少ない場合には臨床系教員への診療負担などが大きくなっていると考えられる。

無給研修医については麻布大が 83 名、日大が 49 名と非常に多く、他 3 大学ではゼロであった。麻布大では無給研修医の役割については表 1-4-3 の欄外に記載した。各大学とも急速に臨床系教員や有給獣医師を増加することは困難な状況であることが予想され、さまざまな形で病院の支援要員を確保する工夫がなされることは必要と考えられるが、無給研修医についてはその役割を明確にすることが必要で、診療を無給研修医に頼る体制があるとすれば問題あると考える。

動物看護師は 5 大学の動物病院で 4～10 名が勤務している。また、検査技師・薬剤師は 1～3 名が病院での診療支援に当たっている。日大では専門の検査技師がゼロとなっている。検査や薬物管理体制を教員が担当しているとすれば臨床系教員の負担増につながり、改善が必要と考えられる。

資料

表 1-1-1 教員構成 1

大学	調査年度	現員(名)					女性教員(名)				
		教授	准教授	講師	助教・助手	計	教授	准教授	講師	助教・助手	計
酪農大	平成 10	18	20	9	2	49	1	1	0	0	2
	平成 14	20	19	9	2	50	1	1	0	0	2
	平成 18	28	18	3	3	52	1	1	0	0	2
	平成 22	32	17	5	3	57	1	1	2	0	4
北里大	平成 10	18	12	11	5	46	0	0	1	0	1
	平成 14	17	12	13	8	50	0	0	1	0	1
	平成 18	17	8	16	8	49	0	0	1	1	2
	平成 22	17	14	13	10	54	0	0	1	2	3
日猷大	平成 10	19	9	13	10	51	1	1	2	1	5
	平成 14	21	7	13	10	51	2	1	1	1	5
	平成 18	19	15	10	12	56	2	1	0	0	3
	平成 22	21	13	15	11	60	3	0	0	0	3
麻布大	平成 10	28	22	12	2	64	1	2	4	1	8
	平成 14	26	21	13	4	64	1	2	4	1	8
	平成 18	18	22	13	2	55	1	2	6	2	11
	平成 22	18	22	12	7	59	1	4	4	2	11
日大	平成 10	18	10	5	6	39	0	0	0	0	0
	平成 14	18	8	4	11	41	0	0	0	0	0
	平成 18	18	7	12	8+3	48	0	0	0	4*	4*
	平成 22	18	11	6	9+3	47	0	0	1	4*	5*
合計	平成 10	101	73	50	25	249	3	4	7	2	16
	平成 14	102	67	52	35	256	4	4	6	2	16
	平成 18	100	70	54	36	260	4	4	7	7	22
	平成 22	106	77	51	43	277	5	5	8	8	26

注) 各大学の数値は、平成 10 年度の調査、平成 14 年 2 月 28 日、平成 18 年 12 月 1 日、平成 22 年 4 月 1 日現在の数値

*) 副手 3 名を含む

表 1-1-2 教員構成 2

大学	調査年度(平成)	他大学出身教員						獣医師免許取得者						博士号取得者					
		教授	准教授	講師	助教・助手	計	%	教授	准教授	講師	助教・助手	計	%	教授	准教授	講師	助教・助手	計	%
酪農大	10	14	12	4	0	30	61.2	17	19	8	2	46	93.9	17	17	6	1	41	83.7
	14	12	10	4	1	27	52.9	19	18	8	2	47	92.2	19	17	6	0	42	84.0
	18	19	7	1	2	29	55.8	25	17	3	2	47	90.4	27	16	3	3	49	94.2
	22	21	10	4	2	37	64.9	29	15	3	3	50	87.7	31	15	5	3	54	94.7
北里大	10	13	7	9	4	33	71.7	14	11	11	5	41	89.1	18	11	8	3	40	87.0
	14	12	8	11	4	35	70.0	15	12	13	8	48	96.0	17	11	11	8	47	94.0
	18	10	5	14	5	34	69.4	13	8	15	8	44	89.8	17	8	15	7	47	95.9
	22	8	12	9	5	34	63.0	15	14	13	10	52	96.3	17	14	12	7	50	92.6
日獣大	10	9	3	3	5	20	39.2	14	9	13	6	42	82.4	16	9	12	7	44	86.3
	14	10	3	3	5	21	41.2	15	7	13	7	42	82.4	18	7	12	8	45	88.2
	18	8	4	2	3	17	32.1	16	14	6	10	46	86.8	19	15	7	11	52	98.1
	22	7	3	6	8	24	40.0	19	11	14	5	49	81.7	21	13	15	10	59	98.3
麻布大	10	6	5	3	0	14	23.0	22	20	7	2	51	83.6	24	19	5	0	48	75.0
	14	5	5	3	1	14	24.6	22	19	8	4	53	93.0	24	18	6	1	49	76.6
	18	2	5	5	1	13	23.6	17	20	10	2	49	89.1	18	21	12	1	52	94.5
	22	8	4	6	3	21	35.6	16	21	11	7	55	93.2	18	22	12	3	55	93.2
日大	10	4	1	0	2	7	16.7	18	7	6	9	40	95.2	20	7	5	8	40	95.2
	14	5	1	0	3	9	22.0	17	8	4	11	40	97.6	18	8	3	9	38	92.7
	18	5	2	5	3	15	31.3	17	7	12	8	44	91.7	18	7	11	8	44	91.7
	22	6	3	3	4	16	34.0	17	11	6	8	42	89.4	18	11	5	9	43	91.5
合計	10	46	28	19	11	104	42.3	85	66	45	24	220	89.4	95	63	36	19	213	86.6
	14	44	27	21	14	106	42.4	88	64	46	32	230	92.0	96	61	38	26	221	88.4
	18	44	23	27	14	108	42.5	88	66	46	30	230	90.6	99	67	48	30	244	96.1
	22	50	32	28	22	132	48.2	96	72	47	33	248	90.5	105	75	49	32	261	94.2

注) 各大学の数値は、平成 10 年度の調査、平成 14 年 2 月 28 日、平成 18 年 12 月 1 日、平成 22 年 4 月 1 日現在の数値

全体表 1-1-3 教員の年齢構成

大学	調査	教授						准教授(助教授)						講師						助教(助手)						全体						計											
		≤45	50	55	60	65	≤66	≤35	40	45	50	55	60	65	66	≤30	35	40	45	50	55	60	65	66	≤30	35	40	45	50	55	60		65	66									
酪農大	H10年	1	5	3	4	4	1	0	3	12	3	1	1	0	5	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	5	7	13	8	4	5	4	1	49	
	H13年	1	7	3	5	4	0	0	2	12	5	0	1	0	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	9	13	12	3	6	4	0	51
	H17年	2	8	9	4	4	1	0	2	7	6	3	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	2	2	4	9	14	12	4	4	1	52
	H22年	4	7	9	9	3	0	0	7	2	4	3	1	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	6	8	6	11	12	10	3	0	57
北里大	H10年	0	0	10	5	3	0	0	1	3	4	3	1	0	3	3	5	0	0	0	0	0	0	0	1	3	1	0	0	0	0	0	1	6	5	8	4	13	6	3	0	46	
	H13年	0	0	8	4	5	0	0	1	3	5	2	0	1	2	4	4	3	0	0	0	0	0	0	1	6	1	0	0	0	0	0	1	8	6	7	8	10	4	6	0	50	
	H17年	0	1	3	10	3	0	0	0	0	4	3	1	0	3	6	2	4	1	0	0	0	0	0	2	4	1	1	0	0	0	0	2	7	7	3	9	7	11	3	0	49	
	H22年	0	1	2	4	10	0	0	1	5	2	5	0	1	2	7	2	0	2	0	0	0	0	0	3	5	1	1	0	0	0	0	3	7	9	8	3	9	4	11	0	54	
日猷大	H10年	0	0	10	7	2	0	0	0	5	3	1	0	0	0	5	4	3	1	0	0	0	0	0	2	7	1	0	0	0	0	0	2	7	6	9	6	12	7	2	0	51	
	H13年	1	0	10	7	3	0	0	0	0	7	0	0	0	0	6	3	3	1	0	0	0	0	0	2	7	1	0	0	0	0	0	2	7	7	4	10	11	7	3	0	51	
	H17年	0	1	5	5	8	0	0	0	0	6	5	3	1	0	0	5	2	0	0	0	0	0	0	1	3	6	2	0	0	0	0	1	3	11	10	6	8	6	8	0	53	
	H22年	1	1	5	6	8	0	0	0	0	3	5	4	1	0	1	5	6	3	0	0	0	0	0	1	9	1	0	0	0	0	0	1	10	6	10	9	9	7	8	0	60	
麻布大	H10年	0	5	10	8	5	0	0	1	7	7	4	1	1	2	6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4	7	9	12	14	9	6	0	61	
	H13年	0	2	8	9	4	0	0	1	7	6	3	2	1	2	6	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	2	4	7	9	8	11	11	5	0	57	
	H17年	1	0	3	6	8	0	0	0	1	6	9	4	2	3	4	4	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3	5	6	8	12	10	10	0	55	
	H22年	0	1	4	8	5	0	0	2	4	2	6	4	4	2	5	2	3	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	0	0	0	8	8	6	6	10	12	9	0	59		
日大	H10年	1	2	0	5	3	7	0	1	3	5	0	0	1	1	2	1	0	1	0	0	0	0	0	3	2	0	1	0	0	0	3	3	3	6	7	1	5	4	7	39		
	H13年	1	3	1	3	6	4	0	0	5	2	1	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	2	5	3	1	0	0	0	2	5	5	8	5	3	3	6	4	41		
	H17年	0	2	4	3	3	6	0	1	2	3	1	0	0	2	5	4	0	0	1	0	0	0	6	2	0	0	0	0	0	0	6	4	6	6	5	5	4	2	5	45		
	H22年	2	2	3	8	0	3	0	3	4	3	0	1	0	1	4	0	0	0	1*	0	0	0	0	0	8	1	0	0	0	0	0	9	8	6	5	3	9	1	3	44		
合計	H13年	3	12	30	28	22	4	0	4	27	25	6	3	2	6	25	10	6	2	0	0	0	0	9	20	5	1	0	0	0	9	26	34	41	43	38	31	24	4	250			
	H17年	3	12	24	28	26	7	0	3	16	24	19	6	2	9	22	12	6	1	1	0	0	0	12	10	8	3	0	0	0	12	19	33	34	42	44	35	28	7	254			
	H22年	7	12	23	35	26	3	0	13	18	16	18	7	5	11	21	10	6	2	1*	0	0	0	5	29	5	1	0	0	0	5	40	39	36	34	43	42	32	3	274			

注)各大学の数値は、平成10年度、平成13年度(平成14年2月28日)、平成17年度(平成18年3月31日)、平成22年度(平成22年4月1日)の調査による。

日大*講師≥60歳 1名

表 1-2-1 臨床系教員と非臨床系教員の比率（教授・助（准）教授）

大学	調査年度	教授					准教授				
	平成	臨床教員	割合 (%)	非臨床教員	割合 (%)	総数	臨床教員	割合 (%)	非臨床教員	割合 (%)	総数
酪農大	10年	6	33.3	12	66.7	18	8	40.0	12	60.0	20
	14年	7	35.0	13	65.0	20	9	47.4	10	52.6	19
	18年	9	32.1	19	67.9	28	8	44.4	10	55.6	18
	22年	9	28.1	23	71.9	32	6	35.3	11	64.7	17
北里大	10年	4	22.2	14	77.8	18	1	8.3	11	91.7	12
	14年	4	23.5	13	76.5	17	2	16.7	10	83.3	12
	18年	4	23.5	13	76.5	17	2	16.7	10	83.3	12
	22年	5	29.4	12	70.6	17	4	28.6	10	71.4	14
日獣大	10年	4	21.1	15	78.9	19	3	33.3	6	66.7	9
	14年	4	19.0	17	81.0	21	2	28.6	5	71.4	7
	18年	5	26.3	14	73.7	19	6	35.3	11	64.7	17
	22年	7	33.3	14	66.7	21	4	30.8	9	69.2	13
麻布大	10年	11	40.7	16	59.3	27	11	47.8	12	52.2	23
	14年	6	26.1	17	73.9	23	9	45.0	11	55.0	20
	18年	5	27.8	13	72.2	18	8	38.1	13	61.9	21
	22年	3	16.7	15	83.3	18	5	22.7	17	77.3	22
日大	10年	6	33.3	12	66.7	18	4	40.0	6	60.0	10
	14年	6	33.3	12	66.7	18	3	37.5	5	62.5	8
	18年	4	22.2	14	77.8	18	3	42.9	4	57.1	7
	22年	6	33.3	12	66.7	18	5	45.5	6	54.5	11
平均	10年	6.2	30.1	13.8	69.9	100	5.4	33.9	9.4	66.1	74
	14年	5.4	27.4	14.4	72.6	99	5	35.0	8.2	65.0	66
	18年	5.4	26.4	14.6	73.6	100	5.4	35.5	9.6	64.5	75
	22年	6.0	28.2	15.2	71.8	106	4.8	32.6	10.6	67.4	77

注) 各大学の数値は、平成 10 年度の調査、平成 14 年 2 月 28 日、平成 18 年 12 月 1 日、平成 22 年 4 月 1 日現在の数値

表 1-2-2 臨床系教員と非臨床系教員の比率（講師・助教・助手）

大学	調査年度	講師					助教・助手				
	平成	臨床教員	割合 (%)	非臨床教員	割合 (%)	総数	臨床教員	割合 (%)	非臨床教員	割合 (%)	総数
酪農大	10年	3	33.3	6	66.7	9	0	0	2	100	2
	14年	2	22.2	7	77.8	9	0	0	2	100	2
	18年	0	0	3	100	3	1	33.3	2	66.7	3
	22年	2	40.0	3	60.0	5	2	66.7	1	33.3	3
北里大	10年	5	45.5	6	54.5	11	1	20.0	4	80.0	5
	14年	5	38.5	8	61.5	13	3	37.5	5	62.5	8
	18年	5	45.5	6	54.5	11	1	20.0	4	80.0	5
	22年	6	46.2	7	53.8	13	6	60.0	4	40.0	10
日獣大	10年	6	46.2	7	53.8	13	2	20.0	8	80.0	10
	14年	6	46.2	7	53.8	13	2	20.0	8	80.0	10
	18年	2	28.6	5	71.4	7	5	45.5	6	54.5	11
	22年	7	46.7	8	53.3	15	0	0	11	100	11
麻布大	10年	5	41.7	7	58.3	12	2	100	0	0	2
	14年	2	20.0	8	80.0	10	4	100	0	0	4
	18年	4	30.8	9	69.2	13	2	66.7	1	33.3	3
	22年	3	25.0	9	75.0	12	5	71.4	2	28.6	7
日大	10年	4	66.7	2	33.3	6	3	50.0	3	50.0	6
	14年	3	75.0	1	25.0	4	5	45.5	6	54.5	11
	18年	7	58.3	5	41.7	12	5	62.5	3	37.5	8
	22年	5	83.3	1	16.7	6	6	66.7	3	33.3	9
平均	10年	4.6	46.7	5.6	53.3	51	1.6	38.0	3.4	62.0	25
	14年	3.6	40.4	6.2	59.6	49	2.8	40.6	4.2	59.4	35
	18年	3.6	32.6	5.6	67.4	46	2.8	45.6	3.2	54.4	30
	22年	4.6	48.2	5.6	51.8	51	3.8	53.0	4.2	47.0	40

注) 各大学の数値は、平成10年度の調査、平成14年2月28日、平成18年12月1日、平成22年4月1日現在の数値

表 1-2-3 臨床系教員と非臨床系教員の比率

大学	調査年度 平成	臨床教員	割合(%)	非臨床教員	割合(%)	総数
酪農大	10年	17	34.7	32	65.3	49
	14年	18	36.0	32	64.0	50
	18年	18	34.6	34	65.4	52
	22年	19	33.3	38	66.7	57
北里大	10年	11	23.9	35	76.1	46
	14年	14	28.0	36	72.0	50
	18年	12	26.7	33	73.3	45
	22年	21	38.9	33	61.1	54
日獣大	10年	15	29.4	36	70.6	51
	14年	14	27.5	37	72.5	51
	18年	18	33.3	36	66.7	54
	22年	18	30.0	42	70.0	60
麻布大	10年	29	45.3	35	54.7	64
	14年	21	36.8	36	63.2	57
	18年	19	34.5	36	65.5	55
	22年	16 (29*)	27.1	43	72.9	59
日大	10年	17	42.5	23	57.5	40
	14年	17	41.5	24	58.5	41
	18年	19	42.2	26	57.8	45
	22年	22	50.0	22	50.0	44
平均	10年	17.8	35.2	32.2	64.8	250
	14年	16.8	34.0	33	66.0	249
	18年	17.2	34.3	33	65.7	251
	22年	19.2	35.9	35.6	64.1	274

注) 各大学の数値は、平成 10 年度の調査、平成 14 年 2 月 28 日、平成 18 年 12 月 1 日、平成 22 年 4 月 1 日現在の数値

* 麻布大学の 22 年度臨床系教員数について：臨床繁殖学研究室教員 2 名、伝染病研究室（小動物の感染症の担当）1 名、動物病院専任の臨床系教員（獣医学部教員ではない）10 名を加えた場合

表 1-3 教員構成（衛生学担当教員数）

大学	教授	准教授	講師	助教・ 助手	計	全教員に対する 比率 (%)
酪農大	5	4	2	0	11	19.3
北里大	2	3	2	0	7	13.0
日獣大	2	0	2	1	5	8.3
麻布大	3	2	2	0	7	11.9
日大	6	4	0	0	10	22.7
合計	18	13	8	1	40	14.4

平成 22 年 4 月 1 日現在の数値

表 1-4-1 教員、教育支援者当たりの学生数

大学	調査年	学生数	入学定員	教員数	支援者数*	学生 / (教員 + 支援者数)	学生 / 教員	入学定員 / 教員数	教員充足率*
酪農大	平成 10	720	120	49	54	7	14.7	2.45	0.34
	平成 14	720	120	50	58	6.6	14.4	2.4	0.35
	平成 18	720	120	52	48	7.2	13.8	2.3	0.36
	平成 22	720	120	57	55	6.4	12.6	2.1	0.40
北里大	平成 10	720	120	46	36	8.8	15.7	2.61	0.32
	平成 14	720	120	50	36	8.4	14.4	2.4	0.35
	平成 18	720	120	47	48	7.6	15.3	2.6	0.32
	平成 22	720	120	54	64	6.1	13.3	2.2	0.38
日獣大	平成 10	480	80	51	49	4.8	9.4	1.57	0.53
	平成 14	480	80	51	49	4.8	9.4	1.57	0.53
	平成 18	480	80	53	52	4.6	9.0	1.51	0.55
	平成 22	480	80	60	66	3.8	8.0	1.33	0.63
麻布大	平成 10	720	120	64	21	8.5	11.3	1.88	0.44
	平成 14	720	120	64	19	8.7	11.3	1.88	0.44
	平成 18	720	120	55	7	11.6	13.1	2.2	0.38
	平成 22	720	120	59	33	7.8	12.2	2.0	0.41
日大	平成 10	720	120	39	3	17.1	18.4	3.08	0.29
	平成 14	720	120	41	11	13.9	17.6	2.93	0.29
	平成 18	720	120	48	27	9.6	15.0	2.5	0.33
	平成 22	720	120	47	52	7.3	15.3	2.5	0.33

注) 各大学の数値は、平成 10 年度の調査、平成 14 年 2 月 28 日、平成 18 年 12 月 1 日、平成 22 年 4 月 1 日現在の数値

教員充足率は学生数 60 名で教員数 72 名（大学基準協会）を 1.0 とした場合

*平成 22 年度については病院研修医が教育に関わっている場合には教育支援者数に加えた。

表 1-4-2 教育支援者

大学	調査年度	学生定員		教員数	教育支援者数					週平均支援時間				
		総数	1学年		現員	事務職員	技術職員	TA	その他	計	事務職員	技術職員	TA	その他
酪農大	H10	720	120	49	13	1	16	24	54	37.5	37.5	10	37.5	1585
	H13	720	120	50	11	1	26	20	58	37.5	37.5	10	37.5	1460
	H17	720	120	52	9	0	16	23	48	37.5	37.5	10	37.5	1360
	H22	720	120	57	16	0	19	20	55	37.5	37.5	10	37.5	1540
北里大	H10	720	120	46	12	6	10	8	36	43	40	2.6	40	1102
	H13	720	120	50	12	6	10	8	36	43	40	2.6	40	1102
	H17	720	120	47	22	17	9	0	48	38	38	1.8	38	1498.2
	H22	720	120	54	27	16	16	5	64	38	38	4.7	0	1709.2
日獣大	H10	480	80	51	6	0	12	31	49	37.5	37.5	10	37.5	1507.5
	H13	480	80	51	6	0	12	31	49	37.5	37.5	10	37.5	1507.5
	H17	480	80	53	10	12	27	3	52	37.5	37.5	10	37.5	1207.5
	H22	480	80	60	10	14	23	19	66	37.5	37.5	10	37.5	1842.5
麻布大	H10	720	120	64	7	0	14	0	21	37.5		8		374.5
	H13	720	120	64	5	0	14	0	19	37.5		8		299.5
	H17	720	120	55	7	2	15	0	24	37.5	37.5	13	37.5	532.5
	H22	720	120	59	17*	2	11	3	33	37.5	37.5	3.2	37.5	115.7
日大	H10	720	120	37	0	0	3	0	3			2.5	0	7.5
	H13	720	120	41	0	0	11	0	11			8	0	88
	H17	720	120	48	0	2	13	0	15	0	8	8	0	120
	H22	720	120	47	0	0	15	32	47	0	0	8	40	1400
合計	H10	3360	560	247	38	7	55	63	163	155.5	115	33.1	115	4576.5
	H13	3360	560	256	34	7	73	59	173	155.5	115	38.6	115	4457
	H17	3360	560	255	48	33	80	26	187	150.5	158.5	42.8	150.5	4718.2
	H22	3360	560	277	70	32	84	74	260	150.5	150.5	35.9	152.5	7351.9

注) 各大学の数値は、平成10年度の調査、平成13年度は平成14年2月28日、平成17年度は平成18年3月31日、平成22年度は平成22年4月1日の数値。

注：平成22年度については病院研修医が教育に関わっている場合には教育支援者数に加えた。

*事務組織の改組に伴う人数変更（獣医学科専任事務職員ではない）

表 1-4-3 病院の支援要員

大学	有給獣医師	有給研修医	無給研修医	動物看護師	検査技師 (含薬剤師)	その他 (器具洗浄)	合計
酪農大	0	12	0	6	3	0	21
北里大	0	5	0	4	1	0	10
日獣大	0	15	0	10	2	0	21
麻布大	4	10	83*	5	3	0	105
日大	5	23	49	4	0	1	82

平成 22 年度 4 月 1 日現在

*無給研修医について：麻布大学の場合、「麻布大学附属動物病院(家畜病院)研修獣医師規則」に定められた「専科研修獣医師」。附属動物病院外での活動で生計を立てており、この中には開業者も含む。研修医の勤務は週 1～2 回の診療参加のみで入院動物のケアは行わない。教育参加については動物病院内での学生実習に同席し、多少の解説などを行うのみで、積極的な実習支援をする立場ではない。なお、無給研修医の指導体制としては、各科別に診療終了後のラウンドや、早朝、夕方あるいは週末のセミナーなどの開催。年 1 回以上の学会又は紙上発表を課している。

第2章 教育課程

3. 教育課程全般について

教育課程については5大学で常に見直しがされており、カリキュラムの変更が行われている。調査票記載以後の状況について追加した。

酪農大：平成20（2008）年度にかなり大幅な専門教育カリキュラムの変更を行い、平成23（2011）年度からは大学の組織改正に伴い新たなカリキュラムが開始された。したがって、平成23（2011）年度には3つのカリキュラムが同時進行している。このため、時間割編成や単位の振替科目などに多少の混乱を生じている。今後コアカリキュラムへの対応や参加型臨床実習の導入の際には注意が必要と考えられる。

日獣大：平成24（2012）年度入学生からコアカリキュラムに準拠した新しいカリキュラムをスタートさせる予定で、現在、準備を進めている。特に専門科目の低学年次からの開講や臨床教育の充実を目指している。

麻布大：平成23（2011）年度から新しいカリキュラムへ移行した。平成22（2010）年度に新しいカリキュラムポリシーが制定され、また学期末に行われる学生の授業評価に基づく意見を入れた形で新しいカリキュラムとした。なお獣医学教育コアカリキュラムへの擦り合わせは現在検討中である。

3-1 卒業要件単位区分について（資料2-1）

獣医学科の卒業要件は182単位以上であり、国家試験への対応から多くが専門必修科目の単位となっている。そのため、いわゆる教養系科目については酪農大、日大が30単位以上、日獣大が35単位以上、北里大が36単位以上、麻布大が40単位以上となっている。各大学での建学の精神を学生に理解させると共に専門科目の履修をスムーズに実施するための初年次教育の在り方についても私立獣医科大学協会でも協議することも必要と考えられる。

3-2 進級要件について

酪農大が2～5年次の各学年（平成23（2011）年度入学者からは各学年）、日大が2～6年の各学年で進級判定を行っている。3大学については1～6年生の各学年で進級判定を行っている。判定基準は取得科目数または単位数となっている。留年率は年度ごとに異なるが、0.7～3.7%程度である（表3）。各大学とも各学年で数名程度以内の留年者数であり、進級要件はそれほど厳しい条件となっていないと考えられる。

各大学で追加記載のあった状況は以下のようになっている。

酪農大：最近低年次学生で複数の科目の単位未認定者の数が増加しており、また、GPAが年度毎に低下する傾向があり、今後留年者についても問題となると思われる。

北里大：留年者数については特に大きな変化はない。

日獣大：1, 2年次で留年する学生が、ここ数年増加する傾向にある。コアカリキュラムの実施に向け、低学年から開講する専門科目を増やす予定であり、進級基準の見直しを進めていく予定である。

麻布大学：留年者数の動向に大きな変化はなく横ばいの傾向であるが、配当された学年で履修が出来なかった学生（未履修者）が低学年に増加している傾向は明らかで

ある。退学者に関しては平成 17 年度、18 年度ではそれぞれ 9 名、10 名で、最近 3 年間（平成 20 年、21 年、22 年度）ではそれぞれ 5 名、7 名、3 名と減少傾向にある。

今後、学力較差の大きい学生が入学してくる傾向が増加することが予想され、コアカリキュラムや共用試験などの実施に際しては進級要件などの見直しが必要になってくることも考えられる。

4. 臨床と衛生学に関する講義・実習の単位数

4-1 臨床と衛生学に関する講義・実習の単位数について

4-1-1 臨床科目について（資料 3-1）

臨床講義科目の必修単位数は酪農大が 34 単位と最も多く北里大で 21 単位と少ない。選択講義科目単位としては日大が 10 単位と最も多く、酪農大では選択科目単位はゼロである。専門科目に占める単位の割合としては日獣大が 30.5%と高く、麻布大が 18.7%と少なく、他 3 大学は 21.3~26.3%であった。

臨床実習の必修科目単位は日獣大で 15.5 単位と最も高く、麻布大は 8 単位と少ない。実習の選択科目は酪農大で 13 単位と高く、日大ではゼロであった。専門科目に占める単位の割合としては日獣大が 39.8%と高く、麻布大は 6.0%と低い。

臨床講義科目については酪農大では全て必修であるが、4 大学では 1~10 単位と大学毎に差はあるが、選択講義科目を設定している。それに対し、臨床実習科目については酪農大では選択科目の割合が高く（ただし、コース必修）、日大では全て必修単位であった。必修と選択科目の単位配分は各大学での教育課程を反映していると思われるが、日獣大では臨床科目の割合が講義、実習単位とも 30%以上と高く、臨床科目重視の姿勢がうかがえる。一方、麻布大と日大では臨床実習単位の割合が 6%と 7.9%と全体の 1 割以下であった。

臨床実習については班分けや班当たりの学生数、各実習担当毎の教員数は報告されたが、記載されている実習担当教員数が毎回参加しているのかあるいは分担しているのかなどや各回毎に使用する動物数などは明らかではないので、単純に単位数だけでの比較は難しいと考えられる。なお、各大学の講義・実習のシラバスが提出されたが、資料が膨大となってしまうため、相互評価資料として掲載することは取りやめた点についてご了承いただきたい。

4-1-2 衛生学関連科目について（資料 3-1）

公衆衛生学ならびに獣医衛生学関連必修講義科目については日大が 24 単位と多く、酪農大 19 単位、麻布大 18 単位、北里大 7 単位、日獣大 6 単位であった。関連選択講義科目は北里大で 2 単位、日獣大で 1 単位、3 大学ではゼロであった。

公衆衛生学ならびに獣医衛生学関連必修実習科目では酪農大で 11 単位、日大で 7 単位、麻布大で 5 単位、日獣大で 4 単位、北里大で 3 単位であった。関連選択実習科目では酪農大で 12 単位（各コース必修）、北里大で 2 単位、3 大学ではゼロであった。

今回の評価では衛生学関連科目については授業内容での確認を行っておらず、衛生学関連科目として各大学で判断した科目数を記載したので、必ずしも教授すべき公衆衛生学や人獣共通感染症、食品衛生学、獣医衛生学などそれぞれについて含まれる講義・実習を確認していない。したがって、必ずしも実態を正確には反映していないかもしれない。しかしながら、衛生学関連教科目名や単位数の調査と担当教員数はある程度対応していることからほぼ各大学の状況を反映していると考えられる。

衛生学関連科目については講義・実習とも酪農大と日大が多く、これは衛生学関連

科目の担当教員の割合が両大学で多いことと一致し、この分野の科目を重視する姿勢がカリキュラムからも示された。次いで麻布大の割合が高く、北里大と日獣大では選択科目を加えても衛生学関連の講義単位数は他 3 大学よりも少ない。現在獣医学教育で衛生学関連科目の社会的要請が大きく、授業内容を検討しながら、不足している大学では教育・教員の充実が必要と考えられる。

なお、各大学の講義・実習のシラバスが提出されたが、資料が膨大となってしまうため、相互評価資料として掲載することは取りやめた点についてご了承いただきたい。

資料

2-1. 卒業要件単位区分

[酪農学園大学] 平成 20 (2008) ~平成 22 (2010) 年度入学者

科目区分			各区分で修得すべき単位数
第一類 (教養科目)	第一群	人文社会学	12 単位以上
	第二群	数学	4 単位以上
	第三群	自然科学	4 単位以上
	第四群	保健体育	2 単位以上
	第五群	外国語教育	8 単位以上
	小計		必修課目 8 単位を含み 30 単位以上
第二類 (専門基礎および関連科目)			13 単位以上
第三類 (専門科目)	生体機能教育群		28 単位
	感染・病理教育群		24 単位
	衛生・環境教育群		26 単位
	生産動物医療教育群		16 単位
	伴侶動物医療教育群		27 単位
	小計		121 単位
第四類 (専修教育)	第一群		5 単位以上
	第二群		13 単位以上
	小計		18 単位以上
総計			182 単位以上

[北里大学]

科目区分			各区分で修得すべき単位数
1 群科目	人間形成の基礎科目	文化の領域	4 単位以上
		社会の領域	6 単位以上
		健康の領域	2 単位以上
	基礎教育科目	外国語系	8 単位以上
		数理・情報系	6 単位以上 (教養演習含む)
		自然科学系	10 単位以上
	小計		必修科目 18 単位 (選択として文化の領域 4 単位、社会の領域 6 単位、外国語系および数理・情報系 6 単位) を含み 36 単位以上
2 群科目	関連科目		必修科目 14 単位を含み 19 単位以上
3 群科目	生体機構系科目		必修科目 40 単位
	予防衛生系科目		必修科目 29 単位
	臨床系科目		必修科目 35 単位を含み 37 単位以上
	共通科目		必修科目 15 単位を含み 21 単位以上
	小計		必修科目 119 単位を含み 127 単位以上
総計			182 単位以上

[日本獣医生命科学大学]

科目区分		各区分で修得すべき単位数
選択科目	外国語、スポーツ、心理学、経済学、飼養学、育種学など	1～3年次の間に35単位以上履修すること
選択必修科目	臨床解剖学、病院経営学、救急医療学、臨床栄養学など	4～5年次の間に20単位以上履修すること
	小計	必修単位として55単位以上履修すること
専門基礎教育	概論・倫理等	必修課目11単位
専門教育	生体・機能	必修課目12単位
	感染・病理	必修課目17単位
	衛生・環境	必修課目13単位
	生産動物医療	必修課目9単位
	伴侶動物医療	必修課目20単位
	小計	82単位
実習（必修）	基礎	必修課目12.5単位
	応用	必修課目7単位
	臨床	必修課目9.5単位
	獣医総合臨床	必修課目10単位以上
	小計	39単位
卒業論文		必修課目6単位
総計		182単位以上

[麻布大学]

平成21・22年度入学者			
区分		単位	備考
基礎科目	必修	5	生物学2単位，化学2単位，コンピュータ演習1単位
	選択必修	12	英語の中から8単位，英会話及び第二外国語の中から4単位以上
	選択	23	人文系科目から2単位以上，社会科学系科目から2単位以上
専門科目	必修	135	基礎獣医学系 23単位 病態獣医学系 25単位 生産獣医学系 27単位 臨床獣医学系 26単位 環境獣医学系 18単位 共通科目 16単位
	選択	7	
計		182	

平成23年度から新カリキュラムへ変更。成果を上げてきましたが、平成22年度に新しいカリキュラムポリシーを制定し、学期末の学生の授業評価に基づく意見を入れて作成。なお獣医学教育コアカリキュラムへの擦り合わせは現在検討中。なお、卒業要件は187単位となった。

[日本大学]

				開講単位	卒業に必要な単位	
総合教育科目	I 群	言語系	必修	8	8	30
				34		
		数理系		8		
	II 群	人間の科学	選択	12		
		社会の科学		12		
		自然の科学		12	2	
	III 群			42	2	
	IV 群			8		
	基礎専門科目			選択	3	
	専門教育科目		必修	129	129	
選択			54	23		
総 計				182		

卒業必要単位数は 182 で、専門必修科目単位数 129(70.9%)、総合教育科目 30(16.5%)、専門選択科目 23(12.6%)である。

2-2 進級要件

[酪農学園大学] 平成 20 (2008) ~平成 22 (2010) 年度入学者

2 年次ならびに 3~5 年次各終了時で進級基準を設けている。

2 年次終了時 第一類ならびに第二類 指定科目の単位習得

第三類 1~2 年次開講の必修科目数の 5 分の 4 以上習得

3~5 年次

3~5 年にのそれぞれの年次において開講されている必修科目の 5 分の 4 以上習得

なお、2011 年度入学生からは毎学年で実施する。

[北里大学]

進級判定は、毎学年で実施している。

(進級要件の抜粋)

- ・各学年次までに配当された科目中、不合格科目が 5 科目以内の者は進級できる
- ・1 年次の 1 群科目が不合格の者は、3 年次に進級できない。
- ・実習科目が 1 科目でも不合格の者は留年とする。但し、不合格の理由が出席日数不足による場合とする。

[日本獣医生命科学大学]

学年ごとに進級基準を設けている。

学年 1 : 必修講義科目 11 単位中 9 単位以上を修得すること

2 : 必修講義科目 21 単位中 18 単位以上修得すること

3 : 必修講義科目 41 単位中 37 単位以上修得し、

選択科目 57 単位中 35 単位以上修得すること

4 : 必修講義科目 63 単位中 58 単位以上修得すること

5 : 必修講義科目 75 単位中 73 単位以上取得すること

[麻布大学]

年次	区分	内訳	進級要件
1	基礎教育科目＋専門科目	必修科目	不合格科目が3科目以内 かつ6単位以内
	基礎教育科目	外国語科目	2単位以上修得
選択科目		12単位以上修得	
2	基礎教育科目＋専門科目	必修科目	不合格科目が3科目以内 かつ6単位以内
	基礎教育科目	外国語科目	6単位以上修得
選択科目		17単位以上修得	
3	基礎教育科目＋専門科目	必修科目	不合格科目が4科目以内 かつ8単位以内
	基礎教育科目	必修科目	5単位修得
		英語科目	8単位修得
		第二外国語科目	4単位以上修得
		選択科目	23単位以上修得
		うち人文系科目から	2単位以上修得含む
うち社会科学系科目から	2単位以上修得含む		
4	基礎教育科目＋専門科目	必修科目	不合格科目が4科目以内 かつ8単位以内
5	基礎教育科目＋専門科目	必修科目	不合格科目が3科目以内 かつ8単位以内
		うち必修実習科目	不合格科目が5単位以内

毎年、5－6名入学する編入学者（編入学年2年次）については、編入前履修科目の基礎教育科目および専門科目について一括認定をせず、獣医学科長の指導の下、認定の可否を決めている。

[日本大学]

進級判定は、2-6年次とも進級時に行っている。すなわち2年次への要件は、30単位以上（専門必修科目開講単位数は20単位で、他に総合教育科目、専門選択科目を加え、要件取得に充分可能な学科目が開講されている）で、3年次へは60単位以上、4年次へは90単位以上、5年次は120単位以上、6年次へは150単位以上を進級要件としている。

なお、編入学者（編入学年2年次）については、編入前履修科目の一括認定をせず、あらかじめ獣医学科で開講の専門科目の取得を指導している。

3. 臨床と衛生学実習について

3-1. 臨床と衛生学に関する講義・実習の単位

なお、割合*は専門科目中の単位の割合を表す。

[酪農学園大学]

	公衆衛生 関連講義	公衆衛生 関連実習	獣医衛生学 関連講義	獣医衛生学 関連実習	臨床科目講 義	臨床科目 実習	備考
必修単位	11	3	8	8	34	9	
選択単位		6		6		13	コース必修
割合*	7.2%	5.9%	5.3%	9.2%	22.4%	14.5%	152 単位

[北里大学]

	公衆衛生 関連講義	公衆衛生 関連実習	獣医衛生学 関連講義	獣医衛生学 関連実習	臨床科目講 義	臨床科目 実習	備考
必修単位	5	2	2	1	21	14	
選択単位	1	1	1	1	6	3	
割合*	4.7%	2.4%	2.4%	1.6%	21.3%	13.4%	127

[日本獣医生命科学大学]

	公衆衛生 関連講義	公衆衛生 関連実習	獣医衛生学 関連講義	獣医衛生学 関連実習	臨床科目講 義	臨床科目 実習	備考
必修単位	4	2	2	2	23	15.5	
選択単位	1				9	2	
割合*	4.8%	4.5%	2.4%	4.5%	30.5%	39.8%	

[麻布大学]

	公衆衛生 関連講義	公衆衛生 関連実習	獣医衛生学 関連講義	獣医衛生学 関連実習	臨床科目講 義	臨床科目 実習	備考
必修単位	14	4	4	1	28	8	
選択単位			0	0	1	自由科目 2	
割合*	9.3%	2.7%	2.7%	0.7%	18.7%	6.0%	6.7%

[日本大学]

	公衆衛生 関連講義	公衆衛生 関連実習	獣医衛生学 関連講義	獣医衛生学 関連実習	臨床科目講 義	臨床科目 実習	備考
必修単位	12	4	12	3	30	12	
選択単位	0	0	0	0	10	0	
割合*	7.9%	2.6%	7.9%	2.0%	26.3%	7.9%	要件 152 単 位中